

新学期がスタート

自転車事故による救急統計について

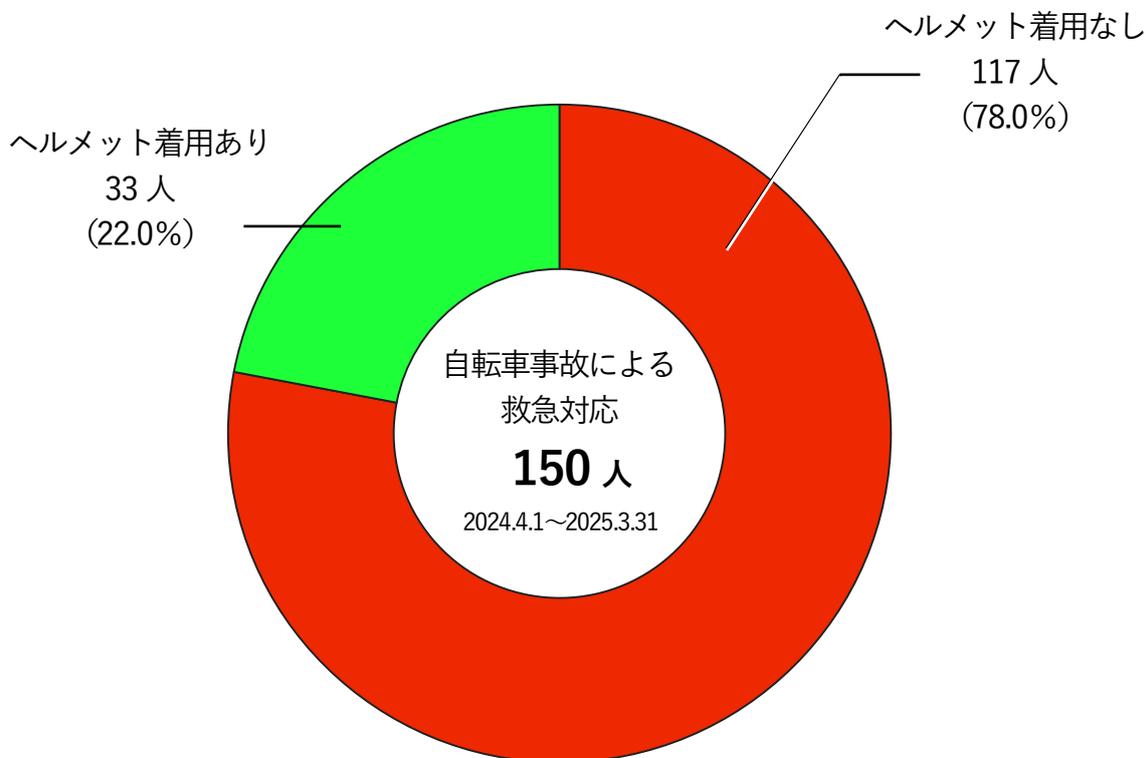
自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化となり2年が経過しました。
郡山地方広域消防組合管内における、昨年度の自転車事故による救急統計をまとめましたのでお知らせします。

- ※ 救急対応人員：救急出場により対応した人員数で、現場処置等により不搬送となった者も含む。
- ※ 小数点を含むものは、小数点第二位を四捨五入した数値で表記。

1 自転車事故におけるヘルメット着用の有無

郡山地方広域消防組合管内では、2024年4月1日から2025年3月31日までの期間（令和6年度）に、自転車事故により150人を救急対応しました。（搬送138人、不搬送12人）

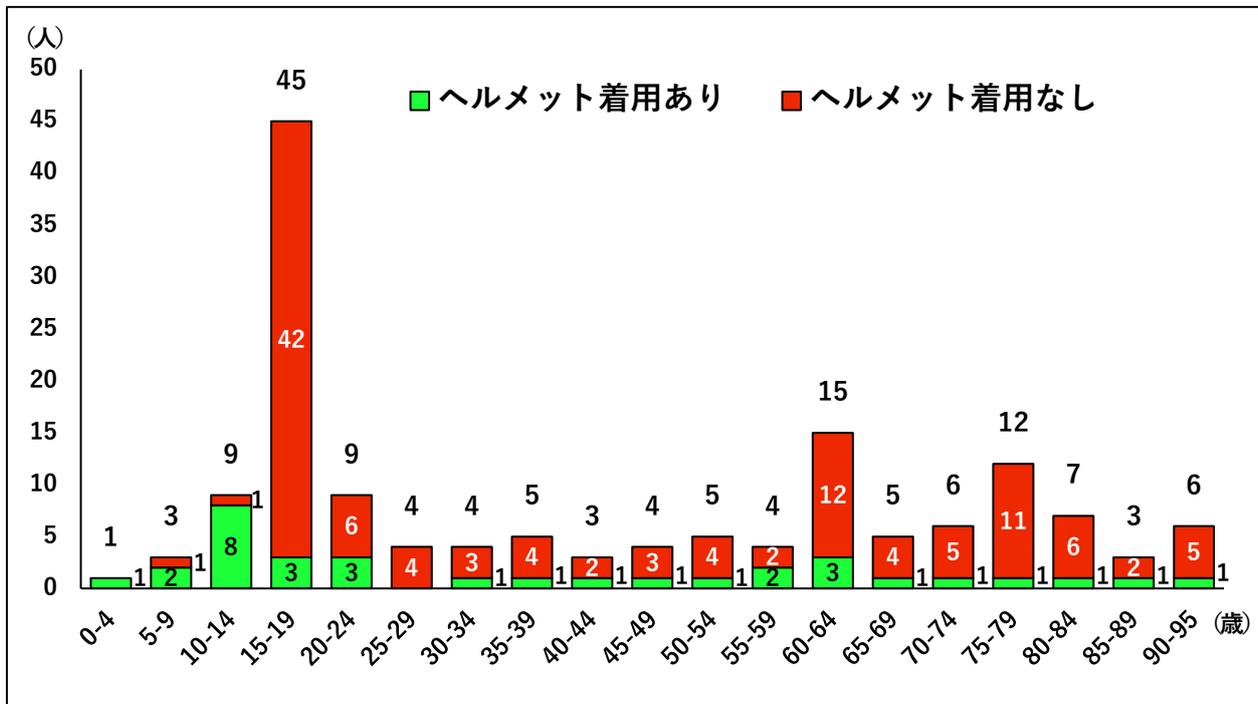
このうち事故発生時に「ヘルメット着用なし」が117人（78.0%）、「ヘルメット着用あり」が33人（22.0%）でした。



2 年齢区分ごとの救急対応人員とヘルメットの着用率

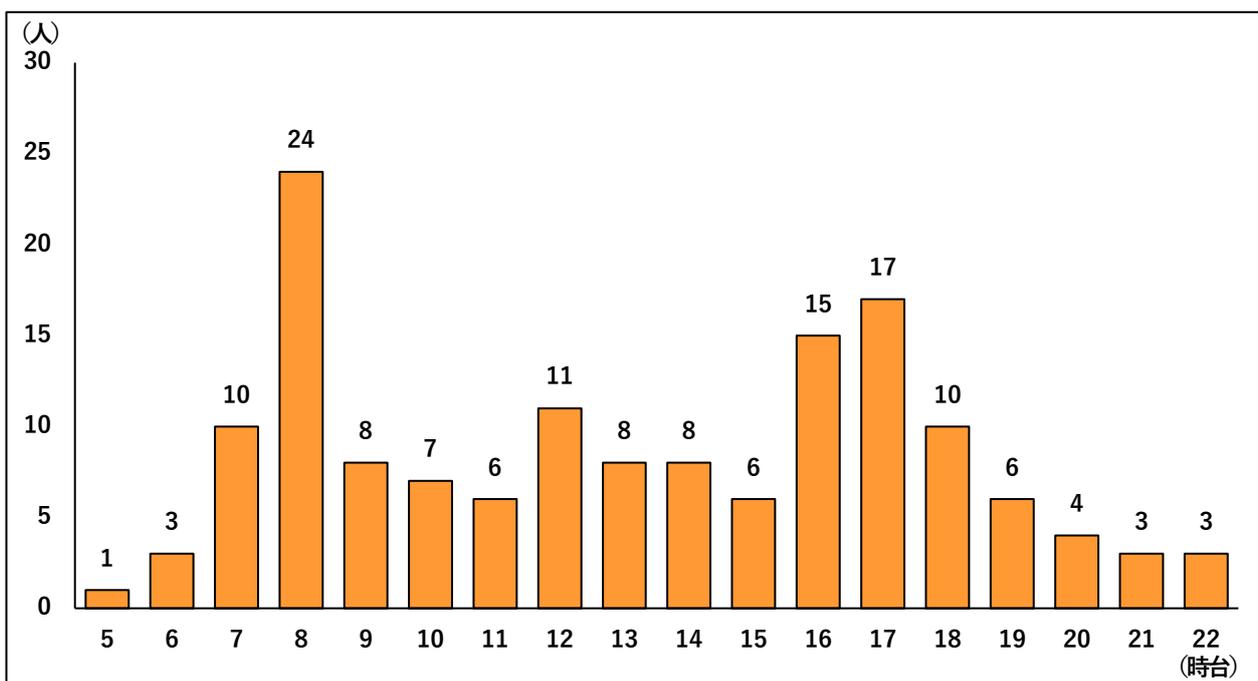
救急対応した150人を年齢区分別にみると、「15から19歳」が最も多く45人(30.0%)、次いで「60から64歳」が15人(10.0%)、「75から79歳」が12人(8.0%)と続きます。

ヘルメットの着用の有無をみると、最も多く救急対応した「15から19歳」で、ヘルメットを着用していたのは3人(着用率6.7%)でした。



3 時間帯ごとの救急対応人員

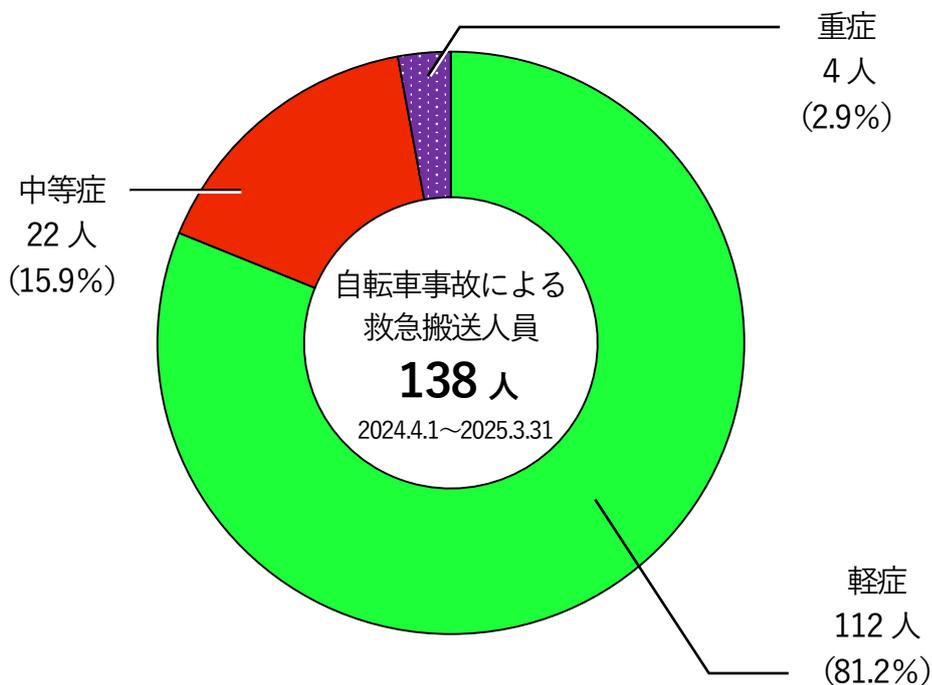
時間帯別の救急対応人員をみると、「8時台」が24人(16.0%)で最も多く、次いで「17時台」が17人(11.3%)、「16時台」が15人(10.0%)と続きます。



※ 23時台から4時台までの事案はなし

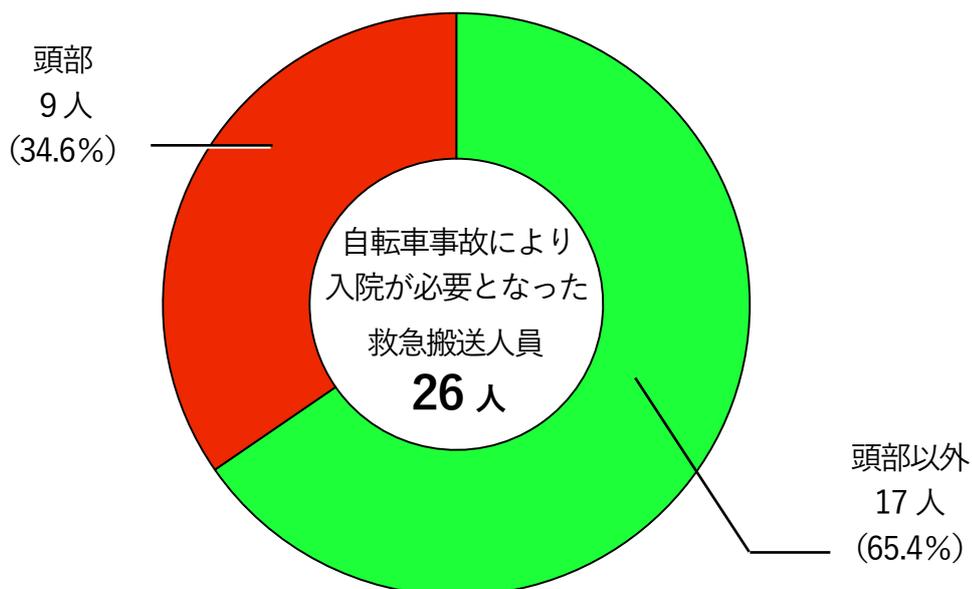
4 傷病程度別の救急搬送人員

救急搬送人員 138 人を傷病程度別にみると、「軽症」が112人（81.2%）、「中等症」が22人（15.9%）、「重症」が4人（2.9%）となりました。



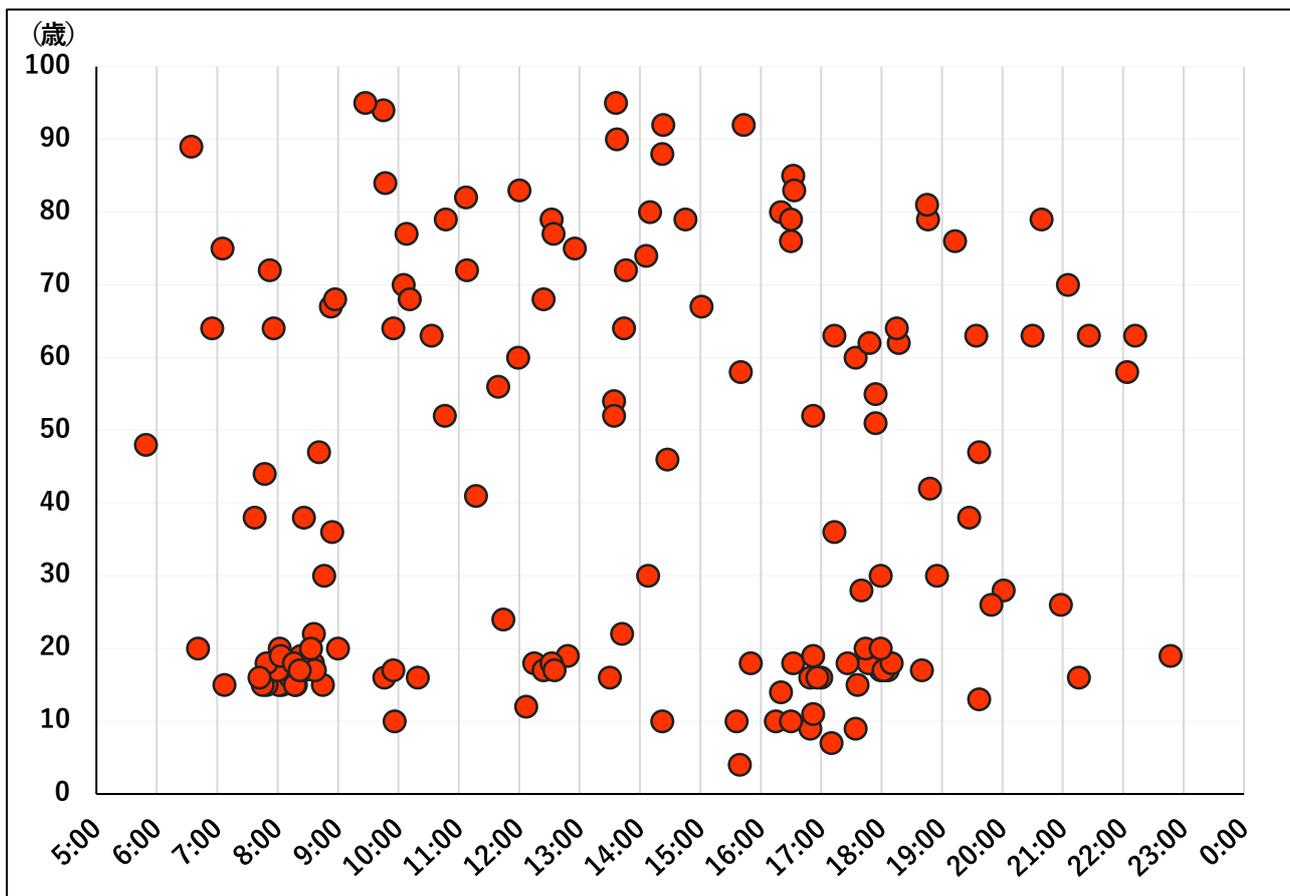
5 入院が必要な「中等症」または「重症」の救急搬送人員における頭部の怪我の割合

救急搬送された方のうち、入院が必要な「中等症」または「重症」と診断された26人のうち、頭部を怪我した方は9人（34.6%）、頭部以外を怪我した方は17人（65.4%）となりました。



6 自転車事故の覚知時間と年齢について

本組合が事故を覚知した時間と、救急対応した方の年齢の関係をみると、10代の自転車事故の覚知は7時から9時及び16時から18時の時間帯に多いことがわかります。



※ 23時台から4時台までの事案はなし